

ゆきぎきのみち

日本古神
道研究会

祝「親王」ご誕生

十二月一日午後二時四十三分に、皇太子様ご夫妻に内親王様がご誕生になりました。おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

昨七日には『命名の儀』が執り行われ、御名は「愛子」、称号は「敬宮」と決まりました。日本中の人々に、世界中の人々に愛され敬われるという素晴らしい御命名です。敬愛の大切さをも表わしておられます。

なおご誕生当日、ご神殿にて大神様に御子様ご誕生のご報告と御礼の儀式をさせて頂きました。『皇室は、人類の中心である』とのお言葉を常より頂いております通り、内親王様ご誕生に際しまして、次々と大切な御伝えを賜りました。御皇室ならではの所も数多くございますが、人の誕生と赤ちゃんの神様に通ずる健康やかなご成長に大切な事として、皆さんにもぜひ知って頂きたい事がございましたのでここにお知らせ致します。

式典とお供え物について

神様へのご報告と御礼

神様と御子様へのお供え

神様への御礼のお供えもの

- 一、お神酒
- 二、鯛 うしおじろ
- 三、鯛の潮汁
- 四、ご飯
- 五、おつまみとして（五品：…一対のもの）
 - 干し小魚
 - 干しコンブ
 - くるみ
 - 松の実
 - クッキー（5頁を参照ください）

御子様へのお祝い膳としてのもの

三、ご飯
四、葛湯くすゆ

五、わらひ

二六六一年十二月二日 月次祭 直会より

御子様御生誕の儀にあたってのお伝え

産湯の儀 賜劍の儀

美津子先生 一般的にはお子さんが生まれると七日目にはお七夜をして、その時お誕生の時には家族で「おめでとう」と言うけれど、神様とのご縁を結ぶという儀式をするお家は凄く少ないのではないかと思います。実は今回御子様誕生のことについて次々とお伝えを頂いたので、お誕生の時にはまず大神様への御礼のお供え物等を見せて頂いた上で、出生のご報告を申し上げる儀式をすべきなのです。

それで、一般には産湯をつかうという風に言いますが、天皇家あるいは皇太子様のお子様のおときには、お部屋の中に入れて、反対側のところから産湯にお湯を入れたところへ女官の方が御子様を抱いてそちらへお連れして産湯をつかせて頂く。そしてカーテンの反対側では、日本書紀を讀む方と弓を引く方がいらつしやるということですが、男性の場合には弓を引く方が三人いらして、三回引くことになっているそうですね。

師 男性の場合は三回弓矢を引く。女性の場合は二回と言われている。まず音霊ねたまの基本とされる琴の元になる弓弦を鳴らして清め、それから弓矢を放つというようにお伝え頂きました。ただ

産湯の方を向いて射られた点は、お湯をつかっていては裸という非常に危険な状態ですから、外部から変な物に襲われることのないように、三方へ向いて打つという姿勢をするのだという場面が映りました。

それから、賜劍しけんの儀というのは天皇家から守り刀としてお劍つるぎとお袴を頂くという儀式ですね。そうしたことはご神殿のここでも霊的には全部行いました。産湯も用意して全部行ったのです。むしろ霊的に大神様に通じるようにすることが大切なのですから、『念と言霊』ということ、念が先ですからね。

ご報告の儀 にあたって

美津子先生 そういった神様へのご報告の儀と産湯の儀式ということがございました。ただ御子様がお生まれになられる時には大神様には鯛のお供えをして、お神酒と一緒にご神饌をお供えをするということとさせて頂きました。実は昨日は一日祭ですから、神様へのお供えのご神饌が上がっていた時にお生まれになられたので、改めてのご神饌はお上げしないうで、「そうではない」ということでした。一日祭があるうと誕生祭というのはまた別なのですね。

師 別です。やっぱり御様が生まれたことの喜びなのです。だから、一日祭の分としてのご神饌があるからいいだろうというわけには参りません。それは別個のものとして一旦お下げして、御子様がお生まれになられたということに對してのお祝いとしてのご神饌を用意しないといけません。流用というわけにはいかないのです。何事も一つ一つに真心を込めて行うことです。

美津子先生 はい。人の世界での「何か食べたい」とかそういうことではなくて、実は改めてご神饌を用意させて頂いて大変吃驚することがありました。

陰陽二つ 子供というのは陰陽二つの働きがあって生まれるもの。陰陽の合体によって生まれるものだから、例えばこう

いうお魚の干物みたいなものをお供えする時も、一匹ではなくて、必ず対で「対にして供えよ」ということだったのです。

師 対で行うことが大切なのです。単に偶数で四つとか六つとかというのではなくて、対にするのです。「陰・陽」とか「明・暗」とか「男性・女性」とか、そういう対になっているものとして行うのです。

お一日祭として、神様にお供えする時には例えば五つとか八つとか色々数を考えて、皆さんのところにも多分直会のものとして五つ行っていると思うけれども、子供さんの誕生の時には一対ということを考えていかないといけないのです。

美津子先生 だから干したものを二つ、昆布も不思議だったのですけど乾燥昆布を、これも何故か二つだったのですね。全部二つ二つで、「陰陽の力によって生まれる」ということで、全部一対にしてお供えさせて頂いたのです。もう一つ大変不思議なことがあります。今日はそれもあって実は皆さんにお配りしたのですが、このくるみですね。

松の実、くるみ 対のものという意味

師 このくるみ、くるみはよく

見て頂くと、左右対称になっている。しかも、脳味噌の形をしています。この脳味噌が発達して、昨日お生まれになった内親王様とか、親王様の場合には、要するに日本の国なり世界を統率するということと内親王様の場合には合わないけれども、しかし世界中にきちっと愛情なり優しさが届く様になるというそういう意味の脳味噌ですね。

くるみをよく見て下さい。脳味噌の形をしているでしょう。きちんとなっているものは脳味噌の形をしているのです。この脳味噌でそういう智慧を授かることになっているのですね。

私達の世界でしていることがすべて悪いというわけではないけど、例えば豆というのはね、いつも御祭毎に大豆や小豆をお供えしているけれども、御子様ご誕生としてお供えするのは、神様の方からはちよつと違和感があつて、受け取らないという程の拒否感はないけれど、ちよつと首をかしげられるものがあつたのでご遠慮したのです。

我々からすると、「マメ」なようにということでお供えさせていただけのが当然と思われがちなのですが、「マメ」なようにとか、「よる昆布」とか色々な形で伝わっているものは語呂合わせが多いのだけれども、そういうことではないのです。

やっぱり中身でこういうものは智慧そのものを授かるものとして、「くるみ」というものをお供えして、そして神様からそこに込めていただくことが必要なのです。

そういうものがもう一つあります。「松の実」です。はつきり